

出会いの中から生まれる私
湍口 未久
私はニューカマーの日系2世として、このシカ
ゴで生まれ育ちました。そして日系アメリカ人とし
ての誇りを持ち、毎日楽しく過ごしています。
アメリカで16年生きている私という人間の存在
が当たり前のようで、でも時に不思議に感じるこ
とがあるのです。今の私を作り上げてきた諸々の
人たちの縁という糸を手繰り寄せてゆくと、まず
今の私になった1番最初で1番大切な出会いは、
父と母が出会ったことから始まります。父は学生の
頃に聞いたブルースと言う音楽で使われているハ
ーモニカに興味を持ち、その音楽のCDの作成場
所がシカゴであると知りただそれだけの理由でシ
カゴへやって来ました。母は子供の頃に見たテレ
ビで兼高かおるという人に憧れて色々な国を旅行
しながら、イギリスのロンドンで勉強をしていま
した。そしてシカゴから演奏の為にロンドンツア
ーに来ていた父と母が出会い、父は母に一目惚れ
をしたと言っています。母は学生で貧乏だったの

で、何でも好きものを食べさせてくれる父を大好きになっ たと言っ ています。そして数年経っ て私がこのシカゴで誕生したのです。私は父と母の出会いがまるで映画のストーリーのような展開で素敵な出会いだと感じました。

私が産まれた頃、両親はフルタイムで仕事をしていたので、私はデイケアに預けられていました。父と母は仕事が忙しく、私を育てる事だけに精一杯で私の将来の事や習得すべき母国語の事について真剣に考えた事はなく、ただただ私が元気で明るく育ってくればいいと思っ て過ごしていた様です。

そして、3歳になる前に私に弟が出来ました。弟の誕生をきっかけに、母は仕事を退職して子育てに専念する様になりました。この私と弟との出会いが、人生の次なる縁といいいますか、私の生活を大きく変るものとなりました。母が仕事を辞めた事でデイケアには行かなくなりました。その頃の私はつたない英語とほんの少し日本語を話せるくらいで、今の私からは想像できませんが言葉数

がとても少なく両親はすごく心配したそうです。
そこで数か月間日本に帰国したり、日本人のグループのプレイデートに参加する様になったそうです。その時出会ったお母さん達が日本語の教育にとても熱心で、母はその影響を受けずには英語ではなく、日本語の教育に力を入れる様になったそうです。ここまでは私が両親から聞いた話ですが、今でも私の記憶に残っている思い出の中で本当によかったです。と思う事は、聖マタイ日本語幼稚園に4年間通えた事です。ここでは日本語で毎日泥だらけになって友達といっしょに遊びました。そして今でも仲良くしている友達や先生達と出会え、私の日本人というIDを深めることができました。またこの時に会った友達のおかげで、今の私にとっては何よりも大切で大好きなフィギアスケートに出会う事が出来ました。当時のスケート仲間全員帰国しましたが、私は5歳から11年間、今も毎日スケートをしています。スケートを通して、姉妹のように過ごせる仲間達と出会う事が出来ました。幼稚園卒業後は、両親は日本人がたくさん

いて、日本語の授業が受けれるデューディー小学校
へ通わせたくて、住んでいた家を売に出したので
あが、何年も家が売れず、結局その学校に通う事
は出来ませんでした。私が通う事になった現地の
小学校には全く日本人がおらず、それまで話すの
もテレビも音楽もすべてが日本語だった私には英
語が全然分からず、とても寂しく辛い毎日でし
た。デューディー小学校に行けなかつた代わりに補
習校に通う事になり、土曜日だけでも日本語が話
せ、学年の違うたくさんの方と会える事が私の
楽しみとなり、また日本語力をもっと強化してく
ました。でもここまで来るには正直なところ、日
本語の勉強をするのが嫌で何度もやめてしまいと
思っただ事もありました。けれども補習校の小学部、
中学部を卒業し、今の高1まで通うと、日本語が
如何に大切で必要なものか肌身でわか、た様な気
がします。それと同時に私にとって英語も同じ位
大切なものだと思いました。思えばこの16年間で
得た人との出会いが私の人生にとっても大きな影響
を与えてくれています。人の生まれる確率は14

00兆分の1で、地球には約75億人の人がいて、
80年の人生で親しく会話を持てる人との出会いの
確率は2500万分の1だそうです。その中で私
が生まれ、大切な人達に奇跡的に出会えた事はす
ごく幸せに感じます。これから私の未来が私の為
にどんな奇跡的な出会いを用意してくれているか
が、とても楽しみで仕方がありません。